

南山城村は京都府の南東端に位置し、滋賀県、奈良県、三重県に接する府下唯一の村で、面積約64 $\text{km}^2$ の約4分の3を山林が占める。近年、過疎化の皮により人「廿世帯

より更に前、この地に多くの僧が集まり、堂が千ほども作られたことから、「掌千房」転

当時、周辺の柳生藩、藤原藩、御料が童仙房の所領を主張して争い、幕府より、いずれも属さない土地、すなわち空白地帯(空地)とされたため、脱が掛からない土地という

同41年には電電公社の電話が架設されるなど生活環境が改善されていった。昨年(平成31年)には開拓150年の記念式典が行われ、開拓記念碑が建てられた。

独特的の風土が織りなす茶畠の  
文化的景観が広がる



# ～文化的歴史的所産を巡る～ **残したい情景**

## 第48回 京都府・南山城村

一般財團法人 日本不動産研究会

# 開拓150年 童仙房のあゆみ

じて「土干房」と呼ばれた。  
その後様々な標記がなされた

市内や郡内の有志を募り、移住が開始された。

め、様々な苦難と闘い、たゆみない努力で築き上げたもの

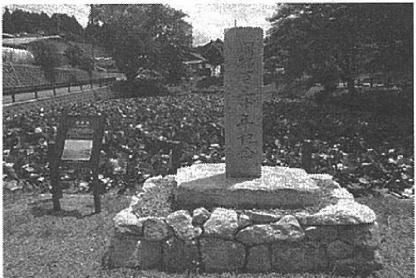
地域の人たちは開かれた気性をもっています。私たち

あと、現在の童仙房となつた  
とも伝えられているが、真偽  
の程は定かではない。また、  
童仙房に関して歴史は何も  
残つておらず、人が住んでい  
たか否か、どのような人たち  
が暮らしていたのかについて  
の記録はない。

明治5年には、京都府文部省  
が童仙房へ移され、役所のほ  
か警察署や郵便局なども置か  
れてにぎわいを見せたもの  
の、明治12年に童仙房支庁が  
廃止されてからは徐々に農業  
のスピードも鈍り、のどかな  
純農村へと変貌。自然条件が

無税の空白地帯

開拓150年を迎えた昭和  
建てられた開拓記念碑



より5度前後低く、夏期は本陰では涼しさを感じる一方冬期の寒さは厳しいといった自然条件を備えている。

童仙房(じうせんぼう)は南山城村の北部、標高500m前後の高原にある。面積は約12.7km<sup>2</sup>、土地は湿潤で地下水に恵まれ、気温は平地

合署として定住促進部局を制度化するなど「子育て世帯や転入者の定住促進により、人口減少防止と活力ある村づくりを推進している。

3を山林が占める。近年、過疎化の波により人口・世帯数とも減少傾向にあることから、村役場では「南山城村田舎暮らし定住促進活動金制

南山城村は京都府の南東端に位置し、滋賀県、奈良県、三重県に接する府下唯一の村で、面積約64キロ<sup>2</sup>mの約4分の